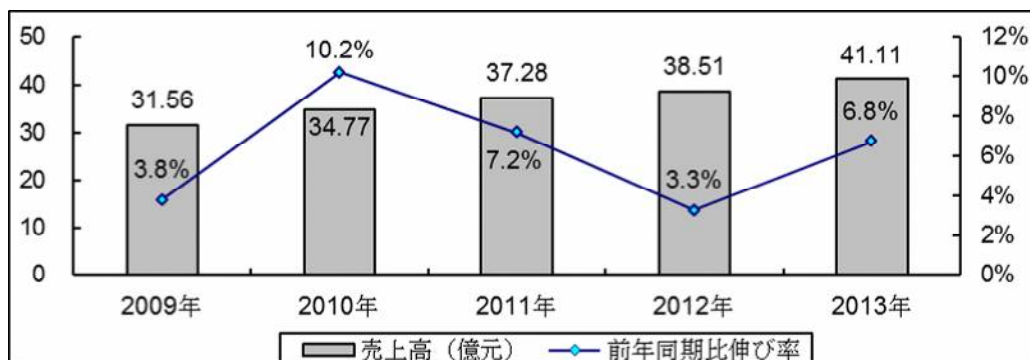


中国 UPS 市場の戦いは高出力製品が主導

世界経済が緩やかに回復し、主な先進经济体で投資や消費が好転するなど 2013 年の世界経済は大きく変化した。こうした中、UPS 市場が急成長している。世界の売上高は前年同期比 1.2%増の 60.03 億ドルで、伸び幅は 12 年を上回った。先進市場では米国と日本が勢いを見せ、欧州市場は持ち直すなど 3 大地域の状況はそれぞれ異なっている。新興经济体は昨年引き続き数年前までの好調を回復できていない。

中国市場は好調を維持するクラウドデータセンターや、4G、スマートシティ、レール交通などが新たな核になっている。2013 年の売上高は 12 年比 6.8%増の 41.11 億元だった。

図 1 2009—2013 年の中国 UPS 市場の売上高及び伸び率



データ出典：CCID（賽迪顧問） 2014, 02

中国の 2013 年の UPS 製品のシェアは主流の 10—60KVA が 34.3%、100KVA 以上が 25.2%だった。200KVA 以上が猛烈な伸びを維持し、10KVA 以下は一段と縮小した。好調な高効率製品が平均価格を押し上げたが、その主な要因としては同年の製品のパフォーマンスの良さのほか、利益率の良さからメーカーが販売に力を入れたことが考えられる。イーソン、エマーソン、APC、科華、科士

達など主要メーカーでは **20KVA** 超の製品の伸びが顕著で、平均価格を押し上げた。

高効率製品の主な利用先は電気通信、工業、金融、行政などの業界の大型データセンターやハイエンド市場である。クラウドデータセンターやディザスターデカバリセンターなどの大型サーバールームインフラの新規設置が今後も国内全域で続く。また資源共有ニーズや省エネの風潮で、中小型データセンターは巨大化・集約化の進む大型データセンターに置き替えられていきそうだ。インターネット大手もデータセンターの整備を続ける中、高効率 **UPS** のニーズを左右する動きである。

電気通信キャリアによる **4G** 整備や、国による道路やレール交通などへの投資拡大、電力・医療・海洋業界における付属設備や情報化への大規模投資などが高効率 **UPS** の利用を牽引する。利益率の良い高効率型はメーカーにとっても魅力的であり、ニーズは大幅に拡大していきそうだ。

2013 年もブランド間で激戦が繰り広げられた。中国でのシェアは世界 3 大ブランドが依然として **60%** を占めた。エマーソンは従来の製品をベースにラインアップを充実させ、大型プロジェクトを多数落札、安定成長を維持した。中国国内ブランドでは、科華の高効率 UPS が複数の大型データセンターに採用され、**8.8%** と飛び抜けた伸びを見せた。科士達もここ数年で強化したチャンネルやマーケティングモデルにより **6.0%** の成長を実現した。

メーカーには以下の 3 点が求められる。

(一) 業界ユーザーを注視して製品サービスの向上を続ける

UPS 製品の業界利用は **2013** 年に更に広がった。**4G** への投資、ビッグデータの発展、スマートシティや新しい都市の建設、情報消費の進展、民生事業など

様々な業界でより高度な利用ニーズが生まれそうだ。異なる業界ユーザーがUPS設備やデータセンターの設置に求めるトータルソリューションの形は同一ではない。各メーカーは業界の違いに応じたソリューションを開発し、製品とりわけ高効率UPSのサービス価値を上げるべきである。製品をストレスなく利用するためのワンストップ型サービスの重視。手軽でスマートな取り付け操作の実現による製品の「インスタント」化。中間業者や購入前・購入後のサービススタッフをプロとして育成し、24時間対応可能なホットラインと訓練されたエンジニアチームを確保するための投資の増加。ユーザーのニーズに素早く対応できる体系的なサービスシステムを作り、気軽に安い取り付け・利用・メンテナンスを目指す、といった取り組みが求められる。

(二) 技術力を磨き、省エネを保証

ここ数年、中国国内メーカーは技術への投資を強化しているものの、世界のメーカーにはまだ追いついていない。市場シェアを拡大しより高い地位を目指す国内ブランドは、研究開発への投資を増やして技術基盤を強化しなければならない。サーバールームや業務データが進化し続ける中、突発的な負荷の増加への対応ニーズが増えており、過負荷保護の確保や拡張・メンテナンスの簡便化が求められている。またサーバールームの規格化が進み、電源設備の小型化が求められている。多くのUPSメーカーが取り付けのより簡単な製品を売り出しており、液晶ディスプレイ（LCD）で更にスムーズな取り付け操作を実現した新製品も多い。

またクラウド技術の発展に伴い、データセンターのエネルギー消費の増加に関心が集まっている。ビッグデータの発展で、データセンターはより高度な処理・保存能力を求められ、コストや効率、持続可能性の面で試練に立たされている。電力消費量の急激な上昇に伴い、「省エネ化」が今後のデータセンターの方向性となっている。そのため、UPSはスマート化、デジタル化、高周波数化、

モジュール化しながら一段と「グリーン、省エネ」に向かっていく。メーカーはスマート化、エコフレンドリー化、省エネ化の面で技術・製品の刷新を更に進めることが求められる。

■ 賽迪顧問股份有限公司 (CCID) のご紹介

CCIDは、中国「工業情報化省」傘下で中国最大のコンサルティング会社です。2004年には、中国のコンサルティング会社として初めて香港証券取引所への上場を果たしました。各国の企業に対し、市場調査やマーケティング戦略・販売チャネルの構築支援など多岐にわたるサービスを提供しています。現在は北京本社のほか、上海や広州、深センに支社、日本や米国、韓国、イタリアに事務所を置いてあり、世界的に高い知名度を誇っています。

■ CCID日本事務所

設立：2007年10月

代表：朱偉徳(ファーイースト・パートナーズ株式会社 代表取締役)

役割：中国市場調査サービスのご提供(市場レポート、市場データ、受託調査)

住所：東京都新宿区西早稲田1-22-3(ファーイースト・パートナーズ株式会社内)

■ 中国市場調査サービス



中国市場調査レポート

中国市場の今を知る
最新マーケティングレポート

2012-2013年版中国市場調査レポートを
4月1日より販売開始。詳細はこちら↓
www.j-fep.co.jp/consul/report.html



中国市場データ配信

企業別・地域別最新データの
定期配信サービス

ご希望分野のデータを定期的にお届けする
サービスです。詳細はこちら↓
www.j-fep.co.jp/consul/data.html



中国市場受託調査

政府系コンサル企業による
ニーズ・目的に応じた調査

調査地域・分野を問わず、お客様固有の
ニーズに合わせて実施するカスタムリサー
チサービスです。詳細はこちら↓
www.j-fep.co.jp/consul/custom.html